

会議録

1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議

2 開催日時

令和5年8月17日（木）午後2時00分から午後4時00分まで

3 開催場所

市役所 401 会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 委員 西村幸夫、石田芳弘、服部敦、梅川智也、安藤直樹、高橋秀治、岡田雅隆、浅田甚作、柴田浩行、久世高裕（順不同・敬称略）
- (2) 執行機関 中村経済環境部長、小池観光課長、古谷観光課課長補佐、梅田観光課統括主査、小澤観光課主査補

5 議題

1. 観光戦略の概要説明

2. 観光戦略の進捗状況について

- ① KPI の進捗 資料2
- ② 施策全体の総括 資料3
- ③ 個別施策の進捗 資料4
- ④ 木曽川河畔空間整備 基本構想（素案プラン①～③）の報告 資料5

3. 意見交換

4. 今後の戦略会議について

5. その他

6 傍聴人

3名

【配布資料】

- 資料 1 犬山市観光戦略会議 委員名簿（令和 5 年 8 月 17 日 現在）
- 資料 2 犬山市観光戦略 KPI 進捗状況 一覧表
- 資料 3 施策の総括表 進捗管理シート
- 資料 4 犬山市観光戦略 施策別シート
- 資料 5 犬山市 木曾川河畔空間整備 基本構想（素案プラン① ～ ③）

7 内容
事務局

皆さんこんにちは。

本日はお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより、令和5年度犬山市観光戦略会議を始めさせていただきます。

私、犬山市観光課課長を務めさせていただいている小池と申します。よろしくお願ひします。

着座にて説明させていただきます。

令和3年度末に作成した犬山市観光戦略について、会議開催時には貴重なご意見やご助言をいただき、誠にありがとうございました。

前回の会議から1年半ほど経ちましたが、犬山観光の魅力向上と持続可能な観光まちづくりを目標として、重点プロジェクトを中心に様々な施策を展開しております。

本日は犬山市観光戦略の各種施策の進捗状況の報告をさせていただくとともに、内容を皆様にご確認いただき、ご助言やアドバイス等を頂戴したいと思います。よろしくお願ひします。

本日の会議についてですが、お手元の次第に沿って進め、時間としては2時間、午後4時までには終了とさせていただきますので、よろしくお願ひします。

それではまず初めに、西村会長よりご挨拶をいただきたいと思ひます。

会長、よろしくお願ひいたします。

西村会長

どうも。お久しぶりでございます。西村です。よろしくお願ひいたします。

課長からもありましたように、犬山市の戦略は、昨年度からスタートおり、その前にコロナの最中に作業が少し長引いたんですけど、服部先生を中心に大変独自性のある計画が出来ております。

これがもう出来上がったということで、これから先は、具体的に毎年の進捗状況を確認するというのがこの10年間の主になるわけですけども、それを今日、コメントをいただいて次につなげようということでもあります。

何か決めるというよりも、アドバイスをいただきたいということですので、いろんな意見をいただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。

事務局

ありがとうございました。

本日は委員総数11名中10名の出席をいただいております。

委員の過半数の出席がありますので、会議を成立していることを報告させていただきます。

また、本日の会議は公開で開催されます。

会議室後方の傍聴人の方は、会議中、お静かにお願いいたします。

撮影や会議の進行の支障を来さないよう自席からの撮影を認めておりません。

録音は個人のメモとしての利用に限り認め、切り取って公開することは、やめていただくという取り扱いとなっておりますのでよろしくお願いいたします。

会議の内容については後日、資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますので、あらかじめご了承ください。

会議録につきましては、2人の委員に署名いただくことになっております。名簿順ということで、1年半ぶりではございますが、策定前最後の会議では、柴田委員と久世委員にご署名をいただきましたので、今回は石田委員と服部委員にご署名をいただきたいと思っております。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

また、席に置かせていただきましたが座席表と犬山市観光戦略の概要版でございますのでご確認ください。過不足等ありましたら、お持ちいたします。また、観光戦略の本冊が欲しいという方がいれば、お渡しさせていただきますので、お声掛けください。

最後になりますが本日より委員を委嘱させていただいた名古屋鉄道株式会社の安藤委員、一般社団法人犬山市観光協会の岡田委員、愛知県観光コンベンション局の浅田委員には委嘱状を机上に置かせていただいております。

任期が8月末ということで、わずかでございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題に入らせていただきます。

以降の進行は、会議規則に従い、西村会長にお願いいたします。

では、会長よろしくお願いいたします。

西村会長

はい。ありがとうございます。

それでは議題の2番目ですね、「観光戦略の進捗状況について」の説明に入りたいと思っております。

資料2の、KPIの進捗状況一覧表について、事務局より説明をお願いしたいと思っております。

同時に、関連するものですから資料3、資料4も一括して、説明いただくということで、続けて説明をお願いします。

(事務局説明)

事務局

以上で施策の評価表進捗管理シートの説明を終わります。

先ほど資料3 施策の総括表 進捗管理シートの32番で下本町での文化・アート・クラフトを通じたまちづくりの取り組みについて、服部委員すいませんが、簡単にご紹介いただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

服部委員

せっかく機会をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

ご存知かと思いますが、下本町という本町から続く防災建築街区があるんですけど1970年代に再開発されて、その後、歴史的な街並みの方は1回ダウンしながらも盛り返したのですが、この下本町はなかなか難しい。

ところが最近、独特の空間を意識してかなりアートやクラフトに特化した店舗や事業者の方がどんどん入ってきている。

個々の店舗、事業所の取り組みなんですけど、これをもう少し街並み全体に広げていけないかと地域の方々が話し合っていて、たまたま私がそこに参加していて、なんか支援をしてできないかということで、今年観光庁の補助金をいただきまして、イベントを立ち上げて、アート・文化でまちづくりをしよう。この地域の魅力を生かして、アート・文化のまちづくりが計画的にできないかということでまず第一弾のイベントを立ち起こすということで、今年8月から11月までに集中して音楽イベントやアート・クラフトイベントや映画づくりを立て続けにやるということになっております。

そのパンフレットが今お配りした、1枚目2枚目が全体のパンフレットで、3枚目4枚が近々8月27日に、下本町の防災建築街区の特設会場と、あと堀部邸の方で、地域のアーティストと、その辺で来ていただけるアーティストが来て1日中イベントをやるということになっております。

犬山にないヒップホップ&ジャズなどや最終的になっていろんなグルメもあり、また犬山の記憶を呼び起こして古い写真などを展示しながら、そこからインスパイアされたアート作品作っていくコンセプトになっておりますので、作品づくりに繋がっていく。特に古い写真や古い地図なんかを展示して見ていただくとかかなりご高齢の方も盛り上がるコンテンツになっていくんじゃないかと思いますので、ぜひお誘いあわせの上8月27日にいらしていただきたいと思っております。以上です。

事務局	<p>服部委員ありがとうございました。 三井家住宅に少し触れたのでいいでしょうか、久世委員。</p>
久世委員	<p>ちょうど石田さんのご自宅の前にすごい蔵があるんです。そこに屋敷がありまして、たまたまちょっと物件情報を見たらポンと出てきて、ちょうど今僕は3店舗経営してるんですけど、結構溢れ返っちゃってて場所を拡張したかったんです。</p> <p>そこを購入させていただいて、改修ってことを小池さんさっきおっしゃったんですけど、改修ほとんどする必要がなくて、とてもちゃんと出来てるんです。すごいちゃんと管理されてて。</p> <p>所有者 40年間ずっとお住まいじゃなかったんですけど、ご自宅の方や管理されてる方がすごいちゃんと面倒みてくれて、そのまましっかり残っているのもその良さを活かさせていけたらなと。</p> <p>何かガチャガチャに店に変えるというよりは古民家をそのまま体験していただくという方が今はニーズがあるかなというふうに感じてますので、そういうところができるのが12月か1月ぐらいになりそうだなというところです。以上です。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。 民間の方の取組が非常に進んでいまして。石田委員、どんでんのお話を少しよろしいですか。</p>
石田委員	<p>犬山城下町の再発見は西村先生のお陰です。西村先生の全国街並みゼミ運動が出発点となり城下町を残すことができました。</p> <p>城下町の登録文化財の建物の中で忍冬酒を製造する小島醸造は最も貴重な建築物だと思います。しかし、古い文化財を長年守ってきた家はその持続に大変頭を痛めています。修理代や固定資産税をはじめとする維持費が大変な負担になるからです。一方、近年国家戦略としても自治体のまちづくりの立場からも、文化財を使った観光戦略が大きくクローズアップしてきました。観光庁の地域と一体になった観光地再生という趣旨の「高付加価値化事業」の補助を受けるメドが立ちました。</p> <p>早速、商工会議所の高橋会頭にもご相談申し上げ、市民全体で盛り上げていこうということになりました。さらに小島醸造に負けず劣らずの登録文化財の真野邸にも同調していただき、2軒の建物を宿泊施設として活用するプランがスタートします。</p> <p>犬山城下町は夜になると静寂の中に星が降るように美しく、世界中の宿泊客</p>

を魅了することでしょう。宿泊を楽しめる街としてまた新たな魅力を追求することを楽しみにしてください。

事務局

石田委員ありがとうございます。

では施策の総括の資料3については以上となります。続きまして資料4です。施策の総括表から特にピックアップしまして、ご案内させていただきます。

(事務局説明)

西村会長

はい、ありがとうございます。

戦略に掲載しているものの中で進捗があったものをご紹介いただきました。資料の説明が終わりましたので、ここまでで補足やコメントなどありましたら、お願いします。

久世委員

はい。2点あるんですけど、ひとつが城下町というかロングラン花火とか河川敷含めてなんですけど、お客さんの動向が最近すごく変わってきてるところがありまして、夏の特に暑い時期は昼にもものすごく人が減ってるんです。

夜に来る人が増えて、うちはちょっとそういう傾向が見えた段階で、7月の中頃からなんですけど、営業時間を少し延ばして、朝早めに開けて、夕方も長めに開けるでロングラン花火のときは夜9時までやってたんですけど、全部やると増えたんです。

売り上げは伸びてるんですけど、ただ昼だけやってる方に聞くと、もう大変だ全然人が来ない死にそうだというぐらい、極端に人が来なくなっている。中でも観光キャンペーンとしてのあり方が変わってないもんですから、ちょっとそのちぐはぐなところが目についたというのがまず一つです。

相変わらずテレビでもNHKで串グルメというのをやってるんですけど、全く意味がない。もう夏にはちょっとやり方を変えてかないといけないんで、これは来年ぜひ検討していただきたいことなんですけども、花火があるから、夜行きやいやという人がどうも多いんですよ。

夕方ぐらいから城下町に来て、川沿いには18時半ぐらいに行くという行動パターンがちょっと見えてきてるんで、来年の夏はちょっと夕方以降に重点を置いた取り組みの方が効果が高くなると思います。

あとは川でマルシェは人気は人気なんですけど、やっぱり店舗数が少ないっていうことをお客さんからよく聞くのと、営業出来る時間が短すぎるんで、儲かったって言うてもちょっとしれてると思うんですよ。18時半から20時半までしかできなくて。

21 時以降でも結構お客さんいるんですけど、21 時に撤収しなきゃいけないってことで 20 時半にもう全部撤収させられちゃうもんですから。店舗やってみる方に話を聞いても、もっと、せめてあと 30 分営業できたら大分伸びるのにと。いうこともあるんでそこもちょっと柔軟に対応していただければというのを市に言いたいなど、というのがまず一つ目です。

二つ目は危機管理の話なんですけども、ちょうど先週ですね。うちの待ち合いのところで人がバタンと倒れまして。熱中症と思われるんですけども、中学生ぐらいのお子さんでした。そういう時に、周りにいる方がちゃんと対応できればいいんですけどやっぱりちょっとパニックになっちゃうんで。たまたま僕はそこに居たんで、僕結構通報慣れしてるもんですから、通報したんですけども。救護室が全くない。どこに、誰に、何を言っていかわかんないっていう人も多いです。

毎週のように、毎日のようにも熱中症になって救急車で運ばれる人はいるんですけども、今、城下町プラザ、シルバーの城下町プラザっていうんですかね、あそこで止まっていることが多いんで、そういう機能をしてもらってるんじゃないかなと思うんですけど。ただ、やってるってのは全然わかんないんで。もしかしたらその対応が遅れて、重篤な事態も下手したら死に至ってしまった場合にはもうどんなキャンペーンやっても全く意味がない。だから、何らかのそういう場所を作っておく必要があるなと思います。

やっぱり福祉会館が、今まではそういう機能、福祉会館ですので、そういう方もいるし、ベッドもあるし、休む場所があつていかにも公共施設っていう立て付けだったから、それがあつた時はよかつたんですけど、今はもうただの空き地なので、あそこの利活用というのは、観光的な側面からは、これはもう必要不可欠、何らかの公共施設が必要だなと思います。

歴史まちづくりの観点ではあそこは史跡の候補地ということで、建物が建つのが困難になりそうだという状況なんですけども、

やっぱりちょっと公共施設は、あの部分には必要じゃないかなと思います。

西村会長

管理の側面からも必要だということですね。

ありがとうございます。

夏の昼間、お客が減ってて、という話とマルシェの時間をもう少し延長。具体的な意見が出ました。

久世委員

まとめると観光客の行動の変化が、臨機応変で時期によって全く変わってくるので、そこは観光の当局がしっかり目を光らせながら柔軟に対応できるようにしていただきたいなと思います。

西村会長

ありがとうございます。具体的なご意見でした。
他に何かありますか。

石田委員

わたしは城下町の商家に生まれ現在まで住んできました。城下町商店街は、組合組織を作り、町内会と連携し商売をしてきましたが、びっくりするのは最近の本町通は何の組織もなく、自由気まま。多様性があるといえいいようですが、こんな状態でいつまで続くかなという不安はあります。

行政が何らかのビジョンを示すべきという気がします。

例えば、車と駐車場の問題です。車は進入禁止という意見があります。一方、住んでいる人はそれは困るという。観光客から見るとこのまちは何考えているんだという見方もあります。みんなで議論して、基準や規制みたいなものを作る必要はあるなという気がします。

久世委員が福社会館の跡地の発言がありましたが、行政が城下町のゴールイメージをもう少し具体的に市民の気持ちを引っ張っていくべきですね。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。

城下町のゴールイメージはごもっともで、これからどうしていくのか考えて行くことが必要だと思っています。観光戦略にも住む人と訪れる人の調和と共存というのを掲げていますので、そこに沿って色々な議論していかなければならない。そこで、この観光戦略にはまちづくり株式会社（TMO）さんは入ってはいませんが、ちょうど今年の7月にこれからの城下町地区をどうしていくのか、そこに例えば商業組合の組成が必要なのか、あるいはそれに変わる受け皿のようなものが必要になるのかどうかという話し合いの場を持つことになりました。

犬山市の原市長と高橋会頭のほうで強くリーダーシップを発揮していただいて、犬山市と観光協会と商工会議所さんとTMOさんと、4社が集まって議論を始めたところです。

高橋委員

プラスですね、たまたま特産品協会さんのゲストで、会議に出たときに、特産品協会さんも、本町通りの、言い方が語弊があるといけないんですけど、よそから見えた人達でご商売されてる人、そことの接点が全くない。

我々も接点を持って融和・融合したいと思ってるけど、どうしたらいいんだという話がありまして。そこも含めたら私はいいいんじゃないのということで、申し上げます。

事務局

ありがとうございます。

今現在まず4社で話し合いをはじめまして、このまちづくりに関わっていただける団体さんもほかにもあると思います、特産品協会さんもそうでしょうし、そういった方も含めて、特に今、本町通りを中心とした城下町のあり方について議論をはじめましたので、決してTMOさんを排除しているわけではありません、同じ仲間として取り組んでいます。

久世委員

僕からも一つ。良く言われるんです僕も店やってて、そういうところがないから窓口もない、話し合いができない、統一したいができないってことが非常によく言われるんで。僕もをやってて、もしそういう会議がありますとなっても、もうめちゃくちゃ忙しい時期に設定されてもいけませんよということが多いんです。今までもまちづくり協会とかが一時期立ち上がったけど、結構そういう取り組みやってきたけど、最初は参加するけどそのうち参加できなくなることが続いていたんで、

やっぱり具体的な問題設定が必要だなと思ってたんです。店やってる立場としては、ゴミめちゃくちゃ困るんですよ。大量のゴミが出るんで。よく回収しろっていうのも言われるんで、それはもう回収を当然するんですけど、もうとてつもないゴミが毎日のように溜まっていくんで、ゴミの収集はそれぞれ産廃業者さんと契約してやってるのと、あと個人の延長の方は町内と話をして捨ててしまってるのかもしれないですし、ちょっとゴミがバラバラで捨てられている状態で。

高橋委員

食べ終わった串が、ちょうど家の前の外町に来ると、食べ終わるもんだから困るんです。

久世委員

そうなんですよ。

それが店でやってる例えばフルーツとか加工食品とかそれこそ大量の生ごみが出る。大体週2回ぐらい回収に来てくれるんですけど、もうすごい量なんです。大変なんです。それが、全く別の会社だったりするんで、これを一つの会社でみんな共同で入札にかけるとか、その回収に毎日とは言わないけど、頻度が高くなるよというメリットがあると、これは参加する意欲が出るんですが、おそらくそこでは共通できるんじゃないかなと思うんで、まずそういう共通課題を見出して、そこで、話し合いの場ということではなくて、具体的なメリットがありますよということであれば、絶対乗ってきますから。それまで契約する中で話し合いをすれば十分達成可能だなと思います。

西村会長	みんなが集まって議論しないと、合意しないとそういうことに進まないから、この意味があるんだということですね。
高橋委員	それって地域住民の人もなにかあるの。
久世委員	北のまちづくり推進協議会という。
事務局	城下町、本町だと、町内ごとに、議論されたりだとか。
岡田委員	営業の方たちだけでなく、お怒りになっている地域住民もいる。先ほどの石田委員のお話でもそうですけど。今は反目みたいな形になっちゃってるんですよ。だから、これはいけないと皆が今思ってるんですよ。
石田委員	わたしは「犬山祭保存会長」の肩書きでこの会議の委員になっています。犬山祭保存会は、関係町内のすべての住民によって構成されるコミュニティ活動でもあります。ところがこの犬山祭保存会と、本町通で店を出している人たちとのつながりがありません。本町通りの事業者はリーダー不在で個々ばらばらですから地域のコミュニティ活動が繋がらないのです。
久世委員	そうってしまったメカニズムとしては、店も大規模にやってるところは、僕も今三つ店舗を持っててすごくバランスが取れてるんで、僕は余裕があるんです。時間ができてるんですけど、一つの店舗で小さい面積でやってるところは、1人か2人でやってるんだけど、とにかく忙しくてしょうがなく、余裕がないんです。ストッカーもないっていうところで、行列ができてるけど、意外と売れてなかったり、でもカツカツの状態で行ってようになってしまうというのは、実は、地権者さんの問題もあります。土地がある程度できたら、そこに店をいっぱい作ってしまいます。横町みたいな。ああいう方式はオーナーさんにはメリットがあるんですけど、そこにコンサルの方が入ったりして、店を小分けにすれば、賃料が増えますよ。ただ店やってる人は大変だし、お客さんにとってもあまりいい仕組みではないんです。こういうところが今増えてきているというのがまず一つの問題で。規模の大きな店を作る働きかけをすれば、改善していくところなんですけど。ただ、今は現状としては逆行してると思うんです。
西村会長	なるほどね。 具体的にはどういうところを動かしてって。オーナーを説得しなきゃいけな

いとか。

久世委員

そうなんです。

そういう相談に来られたら僕も説明するんですけど、やっぱある程度大きい店の方が安定して集計出ますよという話をするんですけど、でもどうしてもコンサルに言い含められて。その方がオーナーにメリットがあると思ってしまったらもうそれ出来てしまってるんで。大きい店をある程度作っていくようにしたほうがいい。

西村会長

なるほど。市として、市はやる気があるんだけど何をやったらいいのかみたいなことだと思うんですね。何をやったらちゃんとこうしたことが上手く進むようになるのかと。

事務局

そうですね。今、さっき高橋委員が反目しているという話で、岡田委員が強烈なお言葉を言う方がいると、これは事実でして、我々も日々そういったお声をいただくので。見てみるとお店の人もめっちゃめっちゃ一生懸命商売されてて、しかも結構ゴミも受け入れたり、ごみ箱置いたり、できる限りのことをやっていただいているんです、ほとんどは。本当に一生懸命やっていただいている、住民の方もそういうのを見ているけども、なんでこんなにぎくしゃくしているのかというと、やっぱり接点がないというのが一つあります。

お店の人と住民の人との接点があまりにもないので、お店の人が頑張っているのがたぶん視界に入っていないということがあるので、なにか接点を作るのが一つ必要かなと思います。

もう一つはお店の方は久世委員が言っていた通り、お店はお店で共通のいいこと、課題を解決できる仕組みがあるのかなと。ゴミの問題について今すごい興味深いと聞いておりましたが、そういったみんなが連携・連帯できるものが住民側にもお店側にもできると何か解決の糸口があるのかなと考えています。今やろうとしているのは先程の4団体で話し合いをする中で、課題を明らかにしたうえで、共通のメリットだとかそういったものが見出せるような仕組みや、あるいはみんなで共有していくためのプラットフォームみたいなものができるといいのかなと。お店はお店側で受け皿として住民との話し合いができるようなプラットフォームがあって、住民は住民でちゃんと話し合えるようなプラットフォームがあるというのは一つ大事かなと。

久世委員

お店やっている人も別にみんな揉めたくないんですよ。

高橋委員

これは一つの文化っていいですかね。この尾張の中でも、特にこの犬山あたりに来ると、ものすごいこれ、私は外様ですから、自分の親が何て言われて、どう対処して、どう今の在り方を築いたかっていうの、親父から聞いたわけなんですけれども、ものすごい排他的なんです。新しいものを嫌うんです。これは文化なんですよ。

ですから、先ほど石田さんがおっしゃられたように、これ時間はかかるんです。時間がかかるから、ほっとけっていうのは一つの手。時間が経てば、今の城下町が素晴らしく立ち上がってね、ようやく形を成したところなんで。これは10年は犬山だったらかかるかもしれませんよ。融合するのにな。ただ、それをもうちょっとでも早めたいという、いや、本当に。高橋家だっていじめられていじめられて、「お前なんか向こう行け」みたいな感じだったわけですからね。

久世委員

でも結構変わってる店も多くてですね、やっぱり決して安定してはいないんですよ。やっぱり規模のある程度大きな店は安定してるんですけど、複数店を持っていく傾向ありまして、うちもそうなんですけど。1個上手くいって、規模が大きくなっていくと余裕が出てきて、もっと店を持つというところが今、五つぐらいはあると思うんですけど。ポンと入ってきて小規模で頑張ってるやり始めたけど、それはやっぱり限界がすぐ見えてくるんで、そういうところは結構もうこんなに忙しい時期と暇な時期と差があるのかとかで、もうやめたりこっ所に変わってる店が多いんですよ。だからそういうところとは話し合いは全くできないというのは、もう余裕がない、知らない間になくなっちゃう、新しい人が入ってきましたというところがその見えてる部分になってるんです。

石田委員

現在全国どこでもチェーンストア全盛です。ところが犬山城下町は、個々の個人事業者が中心です。そして個々の事業者をまとめる組織もありません。カオス状態です。わたしは最近このカオスも、そのままにしておけばおのずと自己統制が生じ一定方向に行くのかなあという気がしないでもありません。岡本太郎ではありませんが、矛盾と矛盾が衝突し爆発が起こり次の新しい次元に昇華するという。

久世委員

我々のいろいろ問題が起こってる部分はコロコロ変わってる店のところに行きます。例えば看板とかのぼりとかっていうのも、やっぱ売れてない店が無茶し始めるんですよ。知らぬ間にいなくなって変わっている店舗が多い。その部分は正直もうアプローチのしようがないから。

西村会長 　　ただそういうふうな状況は一応知つとかなないと、ちょっとみんな店が悪いとか、みんな何とかみたいになっちゃうとまずいですよね。

高橋委員 　　来たるべき日のために、組織が機能しようがしまいが、何か作つとかなきゃいけないんですよ。それが、商店街の発展会なのか何かよく分かんないですけど、本町通りで、今バーツとお店やってる方々の組織は絶対作つといた方がいいです。

事務局 　　ですので、その4団体で今、何かそういった組織できないかと。

西村会長 　　それは市が一応、音頭は取ってもらえるんですよね

事務局 　　そうですね。ただ、業者、協会でスクラム組んでやっていくよという

西村会長 　　それやらないと、市は何をやってるんだと思いますよね。

事務局 　　そうですね。すぐ機能するかどうか確かに分かりません。

高橋委員 　　いや、もう機能しなくてもいいんですよ。犬山だから。

西村会長 　　少なくともやっぱり問題が、テーブルに乗って、いろんな議論をして、聞いてもらって、人の話を聞くという機会があった方がいいですよ。

石田委員 　　やっぱり先生が最初作っていただいたような高さ制限するとか景観条例作るとか、それは反対者があっても出さなきゃいけない。まず議論のね、糸口を行政がやらなきゃいけない。

西村会長 　　やっぱりゴミ捨てが駄目だったのはゴミ捨ての条例みたいな、絶対やめろって言えば、それはもう聞かざるをえないですよ。

石田委員 　　法律よりも条例の方がいいでね、そりゃ。分かりやすい。

西村会長 　　そうですね。それと外からくる人からすると、あそこを車が通っていると、このまち何やってんだ、外から見るとね、何もやってない。なんでこんなことも議論できないのかって見えちゃうね。ただ、時間規制だっていいわけですよ。2時間とか、朝2時間とか午後2時間。それもできないのこのまちって思っ

やうのでイメージが悪いんですよ。

外から見たとこどうですか。梅川先生はいろんな日本中の観光地の問題をみているから。

梅川委員

本当にそうですよね。

僕は人の来ない観光地ばかり行っているんで、こんな恵まれたところはないと、そんな感じを受けましたけどね。

だけど、その話題を変えると戦略策定してから、小池さん来られて大学で一杯やったりして、それ以後どうされてんのかなあとすごく心配だったんですけど。このK P Iの数字なんかもですね、やっぱり戦略通りにいってるっていう感じがしててですね。非常にうまくいってるんだな、上手くやってらっしゃるんだなっていうのはすごく感じました。

例えば、やっぱり一番コロナ後で考えないといけないのがやっぱり数を増やすっていうことよりも、やっぱり単価を上げて、良質なお客さんを迎え入れるってのが今大きな流れの中で、端的に言えばやっぱり長期単価が上がっていく。これはもうインディゴさんあたりが出来てきて、単価が上がるっというのは当たり前になるかもしれませんが、しっかりとそういうふうになってますし、地元調達か地元雇用なのかわかりませんが、そういった地域にお金がこう循環するような、仕組みも良い方向にいってるということであれば、この戦略策定した意味っていうかな、意義っていうのが出てきてるのかなとやっぱり思います。観光の経済波及効果ってのは、観光客数×消費単価×地元調達率なんで、3つの変数のうちの2つがうまくいってるし、3つ上がっているんですよ。多分こんな地域ってあんまりないんじゃないかなと思うぐらい、犬山ってすごいというみたいな感じでした。

高橋委員

先生、これごまかされるといけません。

nの値がですね、宿泊者のnの値が、13とか25でいいんですか。

梅川委員

いや、そうおっしゃいますけど、数よりも質が変わってきてるということだと思っんで。

やっぱりすごく素晴らしいなと思ったのはこういった行政がやることで、民間がいろんな動きが出てきてるってことですよ。こっちがやっぱり重要で、結構頑張っているなと僕は思いました。

西村会長

問題があるから頑張らざるをえないのかもしれないですね。

梅川委員

それはあります。だけど、石田さんがおっしゃられたような野放し状態にしておくのはまだいいのかもしれないけど、何らかの、方策みたいなやつがあってもいいのかなっていうのはちょっと思います。それこそが、エリアマネジメントなのか観光地マネジメントか分かりませんが。

石田委員

久世さんに質問したいけど、駐車場はどう考える。

久世委員

僕はキャスルパーキングはないほうが良いとずっと今でも思ってます。やっぱりあそこがあるからどんどん入ってくるっていうのはある。もうあれがなくなれば随分状況が変わると思います。車はやっぱりそれも絶対ないほうが良いです。

ただ、店をやっていると、食べ歩きというのはもうそこまで経済効果が高くないので、単価は安いんです。だから店の中でしっかり食べてもらったほうが単価が絶対高いので、だからもっと店に誘導するようになればいいんで、お店をやってる人間はそこまで気にしないです。

ただ、街を歩いていると、大変だなんていうのは思うんで、パーッと鳴らしながら走ってくるのは「入ってくるなよ」と思いますからね。ああいうのはもう極力入らないような徐行運転をお願いするとかはできないのかなと思います。

西村会長

今でも行政が先頭して、いろんな議論をやらないと進まないんですよ。

事務局

以前は歩行者天国というものをやっていたんですけど、4年ぐらい前に辞めたんです。でも辞めた理由が地元の方との話し合いの中で歩行者天国は望ましくないということでした。車の規制もいろいろ議論があったんですけど、地元の方が、自分たちが帰ってくるのに車の規制を受けると生活が出来ないから車を排除するのはむしろ止めてほしいというような話があり、規制というのは今現在行っていない状況です。

そんな中でも、出来ることないかなって考えたときに、警備員を繁忙期に配置するんですけど、本町交差点の入り口に警備員を立たせまして、「この先は大変混んでます」とか涙ぐましい努力ですけど、観光車両が入るのをお止めください、と。これは規制ではないんです。強制でもないけど、ただ、行ったらすごい後悔するから、ここから入らないでということをお客様には見せています。この警備員を配置しているのとしていないのでは歴然と効果に差がありまして、配置した方がいいんです。警備員が立って看板持っている、県外ナンバーの車が来たならギリギリに来るまで通りが見通せないんで、やめてお

くか、と、見るとすごい人だと。それに気付かずに入っちゃうと後悔するとい
うところなので、

今できることは、観光車両に対してそういうメッセージを発して、なるべく
入らないようにするというのがやれてることになります。

久世委員

何となく地域住民の方は、本町通りにうじゃうじゃに人が溢れ返るようなま
ちづくりやめてくれという意味だと思うんですよ。よっぽどやっぱりビジョン
がある意味しっかりしてらっしゃる方が多いんだと思います。だから、決して
自分の都合が悪いからということではないと思います。生活のためとかでは僕
はないなど。本音はそんなうじゃうじゃに人が溢れかえるまちづくりやっ
たって、そこまで経済効果も高くないし、持続可能じゃないじゃないかとい
うふうに思っただけなんです。

梅川委員

大宰府がやっている、駐車場税。歴史と文化の環境税っていうんですけど、あ
れ駐車場税なんですよ。結局、公共交通機関で来て、車で来ると税金取られ
るよというやり方ですよ。なので、市の方針としてそういう条例を作って、
車で来る人をシャットアウトするってわけじゃないんだけど、公共交通機関
で来られた方が税金もかからないよというような誘導の仕方を市としてやる
っていうのは一つの政策をアピールするためにはいいかもしれないし、それが
観光振興の独自財源なんて言えば。たしか普通税だから検討は必要なんですけ
ど。

久世委員

駐車場料金を土日あげてもいいんじゃないかというの。

梅川委員

それもありますね。

石田委員

それはね、市長が覚悟するかしないかだよ。何やっても反対する人はいるし、
最後は市長の人生哲学と覚悟だね。

梅川委員

大宰府も3回ぐらい失敗してるんですよ。

西村会長

そういう宿泊税もそうだけど、法定外目的税みたいな形で、税金として駐車
場に乗せをして、そのお金はちゃんとこの地域の観光振興とか地域の環境の
増進に使うということになれば、そこに戻ってくるわけなんで。

梅川委員

消費者もそれの方が納得ですよ。

西村会長

それともう一つはやっぱり普通に考えると、駐車場を周りにきちんと作って、真ん中には人を入れさせないというのが都市計画の一番当たり前の政策です。それをどこまでやっていくかということ。

服部委員

今の話を違う局面で言うと、どんどん歩いてくる観光客の方が増えて、駅前から本町通りのほうに歩いていくと歩道が整備されてない駅前通りを歩いていく人がどんどん増えていきます。土日になると、その歩いてる人がどんどん増えてきて、特に駅前の交差点を渡る人が結構いて、それに伴って、駅前通りを走ってる車が、すごい渋滞を起こすんです。

信号が変わったときに横断歩道を渡るんですけど、左折する車が左折できなくて、延々とそこで車が連なっていくのは土日になると起こっている。あれは駅前通りから本町通りへってという動線をずっと許容し続けてるんであのようになっている。それを考えると本当はもっと人の動線を分散化させないといけないし、分散化することによってそれぞれの通りの、いろんなお店とか、そういうところを活用できるようになっていって、本当の意味で城下町全体を活用するって形なんだけど。

今はどうしても本町通りがあってそこに向かうアクセス道路としての、駅前通りとなっている構図になっているために、土日の駅西交差点がすごいことになっている。

我々、町中に住んでる人は車出せない。車出したら帰って来れないということになってしまっている。そこはいろんな意味で歩行者動線の問題とか車動線をどうするかというような全体的に考えなきゃいけない話で、もう観光だけじゃないんですよ。かといって、地下道を通れといっても誰も通らない。暗い地下道もどうするかは長年の懸案事項としてある。駅前から城下町に人を引き入れていくってこのまちの構造をどうしていくんだ、いう議論を十分できてないんだろうと。そういう議論の中で、地下道をどうする。駅前通りをどうするのか。もっと本町通り以外の通りにどう人を振り分けていくのか、この資源をどう活用していくのか、いろんなことを議論していかないと、実は本町通りの問題は解決していかないのであると思うので両方必要ですよ。

実は戦略会議、この戦略を作るときは、あんまり本町通り問題を取り上げていないところがあって。ある意味、石田さんおっしゃる通り、今すぐ何か取り上げててもなかなか上手くいかない。あそこは時間がかかるだろう。その中で他のところへも分散し、城下町全体の質を上げるっていう中で、そこが翻って本町に問題を突きつけるんじゃないかという考えもあって、本町問題はそんなに、正面から重点的に取り上げきれてないところがあり、いずれは何かしない

といけないというのが、本町問題なのかなと思います。

駅前交差点問題というところもまた別の観光の問題としてあって、それはまた、大きなまちの構造の問題が絡んでいくのではと思います。

久世委員

サイン計画もあって分散する流れだったんですよね。だけど、いまいち。

事務局

交通まちづくりサイン計画というのが平成 25 年ごろに出来ましたけど。

柴田委員

交通まちづくり基本計画があって議論したんだけど途中でそのまま終わっちゃったんですよね。おっしゃるように、内田防災公園を何のためにあそこに作ったっていうか、郊外ですよね。久世さんがおっしゃったように、城の前なんか駐車なくすべきだったんですよね。あそこに置いて人を誘導させて回遊性をというところもあったんですけど。でも、そこを議論が煮詰まる前に、進んでちゃったっていうところですね。

もう一度、西村先生おっしゃったように、交通まちづくりから、本当は考えなきゃいけないかもしれませんが、でもそんなこと言ってる場合ではないのは事実で。

久世委員

何となく、こうするほうがいいよねっていうビジョンがなんとなくあったけど具体的にやる時に、ぐだぐだとなってしまう。でもこれ壊すと近くの人が反対するよなとか、一部の人は文句言うな、もうそういうクレームが怖いっていう、ぐだぐだで繋ぎ合ってる状態が現状としてあるわけです。

西村会長

それを承知でやらないといけないと思うんですね。根本的な解決にならない。

こうしていかないとやっぱり変わっていかないということですね。

服部委員

変わりますが、せっかく作っていただいた資料について質問を。

体験メニューを増やしいこうという話が合って、体験型観光コンテンツが不足している。体験型メニューを増やそうとしているんですけど、例えば資料 3 の 10 番メニューを増やすという取り組みが書かれているが、ここで書いてあるのはどちらかという市が主導して、やろうとしてる取り組みが書かれていると理解していいんですかね。民間の方がやられている体験型メニューの取り組みというのは、お店単位だったり、施設単位で、もっと他に多様なものが、どんどん生まれつつあると思うんです。

最近ちょっと付き合いで、堀部邸でどんだけたくさんの体験メニューがやら

れているのか、改めて知って非常に感心してる。年中業者がいて、いろんなコンサートがあっっているんなワークショップやったりしていて、多分そういうのは入ってない。

事務局

おっしゃる通りで、民間の方の取組みというのはかなり充実していて、マルシェにしたって行政が主催するのは当面有り得ないぐらい皆さん自発的にいろいろなマルシェをやられています。体験メニューにしても施設があればそこで音楽やクラフトなどの取組みをされているので、今回この66項目で拾えたのは、かろうじて我々がキャッチできたもののみです。なので、もっと深彫りしたりいろんなりサーチをしたりするともっといろいろな取組みができると思っています。

服部委員

そういう意味で、個々の施設や店舗ごと新しい体験コンテンツはどんどん増えてきていて、それぞれの施設や店舗では集客も含めて苦勞しているところもある。一方で観光客もどこで何やっているのか、トータルで知れるようなサイトとかメニューが充実してるわけではないことを考えると、そういう情報をいかに集めていかに提供するかっていう仕組みの中でこういう体験メニューを考えていかなければならないとことがあると思っっているので、市が直接手を入れてやっている体験メニューだけではなく、民間の広がりみたいなものをいかに観光客の方に、もしくは地域の方に提供して共有できるかというところをぜひフォローアップの中でもやっていただけたらと考えています。

もう一点は、一棟貸の宿泊施設が出来て、まさに石田さんがやられているような葱蔘酒の取組みということで、地域の資源を活用して、特に歴史的な資源を活用して宿泊するというのは少しメインになりつつあると、久世さんがやられていることにも繋がっていると思うんですけど、一方で地域の中で歴史的にずっと維持されてきた、ほっとかれてまた戻ってくところもあるんですけど、そういう施設や建物がこの1～2年のコロナの間にどんどん失われているというところで、この失われていく資源をどうするかということがやはり緊急の課題としてあるのかなと。

一方で、我々まちづくりをやっている人間として、建設会社や設計会社、工務店などのいろんな人と話をしていると、魅力ある資源がある地域って、特に一棟貸の宿泊施設というのを面的に広げていって、うまくネットワーク化して、街の中の人の活動を作り出していくというのは非常に魅力がある。いろんな地域でそういう仕掛けをしたいなという仕掛け人の人たちがたくさん出てきて、始めている。特に岐阜の方や美濃とか関、郡上とかいろんなところでそういう動きが始まっている。犬山はそのとっかかりを過ぎている。

資源が失われていく一方でそういった取組みをしたいという人が増えていて、その中でやりたい人と資源をうまく結びつけて、大きな面的な拡がりや動きに繋げていく。特に城下町が本町だけでなく城下町全体が魅力として捉えていただけるようにするためには、面的に広がっている魅力ある施設をうまく活用する取組みにいかにつなげていくのかがとても必要で、両方の動きがせつかくある状況なので、そこをどううまく失われないようにマッチングしていったって実現に繋げていくのかというのをもう少し外部の力を引き入れながら進めていったってほしいと思います。

西村会長

ありがとうございます。非常に重要な指摘だと思います。例えば先ほどあった4社の会議のような、そういうところでこういうふう建物に宿泊棟貸していくか出てきて、一つの動きが出てきそうだしという話が、みんなまで共有されていくと、随分状況が変わってくると思うんです。

それをうまく市側が情報をきちんとね、正しい情報を出してあげて、ということだと思うんです。ぜひ今のご指摘をうまく活用してやっていただけたらと思います。

他に何かありますか。随分時間が過ぎてるようですので、最後に市がどうしても言いたいという話がありますので、それを報告してもらってそれからまた最後に、コメントをお願いします。

事務局

ありがとうございます。資料5についてご紹介させていただきたいと思えます。

(事務局説明)

西村会長

ありがとうございます。観光戦略に掲げてある内田地区の取組みに関して、観光課として具体的な動きをやっているということで、何かこの件に関して質問やコメントがありましたら、お願いします。

石田委員

坂下地区が相当空き家だらけでほったらかしになっている。ここはまさに木曾川の文化空間ですから対象地域に入れ込んでもらいたい。ライン大橋は農水省の管轄ですが、あのダム建設で実は坂下の文化は失ったものがあります。現在建設中の小水力発電は坂下地区のために還元してほしいですね。

安藤委員

このかわまちづくりの話というのは、私、名古屋鉄道ですので、確かに犬山遊園から、かわまちづくりのエリアを通過して、お城、それから犬山。この動線を確保していただくのは、分散化にとって非常にありがたい話ですし、魅力的

なプランだと思います。そういった魅力付けをすることによって、犬山遊園で乗ったり降りられたりするお客様が増えるのはありがたい話だと思います。

その中で、今のこのかわまちづくりのエリアというのは、プロムナードのような散歩道みたいな考え方、いわゆる公共の施設と考えられているのか、あるいは最近よく民間の資金であるとか、ノウハウを使って実施するTTPやPFIみたいな事業としてやろうとされているのか。どういうイメージを持たれているんでしょうか。そこで収益を生み出そうということも考えられているのか、どういうイメージなのかなど。

事務局

ありがとうございます。まだまだこれから積上げていかないといけないんですけど、基本構想の時点で思い描いている絵は最終的にエリアマネジメントをこの460メートルの歩道で実現したいと思っています。収益を上げるというのは、絶対に必要だと思っていて、460メートル×7～8メートルの細長いエリアを管理区域として、河川法の準則でそういったやり方があるので、区域として指定し、ビジネス展開ができるような手続きを取ってさらにそこを管理する団体を協議会で指定をしまして、管理団体でビジネスも含めて維持管理も含めて管理していただくことが理想形です。そこで得られた収益の一部が地域へ再投資や河畔の維持管理に充てられるのということが非常に有効だと思います。単純にきれいに舗装し直して終わりでは、これだけ鼻息荒く頑張ろう言っているにしては、もったいないというか、遊園ルネサンスの本質とは少し違うかなと思いますので、やはりかつて景色と鶺鴒の両方楽しんでいたこの地区をもう一度復活するという意味では、収益性も必ず必要だと思っています。

あと、人の流れを作ろうと思うと、何らかのこの楽しめるお店などがないと人は来てくれないので、その意味でも収益性は必要と思っています。その手法がTTPになるのか、PFIになるのか、あるいは先ほど申し上げたような形になるのか、研究は必要だと思っております。

久世委員

ロングラン花火の時に、僕も現地にいるときに、人がどういう話をしてるのかを聞きながら歩いたんですけど、ちょうど川とお城の下の公園坂のところの間の道、新郷瀬川沿い、あそこ怖いんでひき返す人が結構います。「ここちょっと怖い、気持ち悪いから、戻ろう」と、あそこもポイントではないかと思う。

この間のお城の管理委員会の方では、川のお城側に七曲り坂があって、切り岸の見学路を作ろうかという話もあったんですけど、東の方の崖も学者の先生方いわく、三段ぐらいに切つてある崖で非常に価値が高いということで、今はもう雑木林でうっそうとしているんですけど、あそこの整備もある意味観光資源として、コンテンツの一つとして活かすようにすると繋がっていくのではな

いかと思います。このかわまちづくりの中にも位置づけをしたほうがいいかなと思います。

事務局

ありがとうございます。

まさに郷瀬川沿いの少しどんよりした感じというのは強く思っています。

久世委員

逆に好きなんだけど。

事務局

とは言っても、お城のお客さんが下へ来るのは少し怖いので、樹木の整備や歩道の整備、何と言っても灯ですかね。もちろん街灯はありますが、人を導入するための照度としてはもう少しなところがあるので、その辺りはご指摘の通りなので、取り入れていきたいと思います。ありがとうございます。

岡田委員

資金の調達で補助金をけっこうあてにした話が多いですけど、つい最近国立科学博物館がクラウドファンディングで一億円の目標がわずか数時間で集まった。リターンは何かというと、バックヤードを見せる見学ツアーやナイトミュージアムをやってみるとか、何かちょっとそういったもので、お金を集められるとそれだけでニュースに取り上げられたりするのでは一石二鳥になるのではないかと。広大な駐車場をどこかに作ってもらえばいいのではないかと思います。意見です。

西村会長

ありがとうございます。他に何かありますか。

梅川委員

河畔空間の整備ももちろんですが、補助金のある南側の民地のほうが、魅力的な空間ができ、人の流れができてくると、かつての宿泊施設ではなく、いろんな投資、民間の投資がいろいろ出てくるってのが一番重要なことではないかと思います。

だけどそれが無秩序に土地が買われてしまうとか、いうことがあってはならないので、その辺の対策だとか、あるいは、ここでひょっとすると商売やってみたって方もいらっしゃると思うんで、その投資の意欲だとか投資意向だとかっていうのはちょっと行政のほうでしっかりと、把握をしてここだけじゃなく、川沿いだけではなく、南側の民地の方ですよ。そこはもうきちんと魅力あるものになっていくといいかなと。せつかくのこの投資チャンスなのでちゃんと把握しておいた方がいいし、変な開発はできないようなコントロールもしっかりやっていかなければならないと思います。

久世委員

関連してですけど、店があったところでコロナで、変わってしまったというところに新しく入った店があるんですけど、駐車場で結構トラブルがあったりするんで、そういうところはぜひ行政も、フォローしてあげて欲しいと思います。結局あったんですけど、近隣のところとちょっとトラブルがあったようで、廃止してしまったんです。遊園の方の裏の名鉄協商さんのパーキングを使ってくださいとかで、以外と距離がある。車でポンと来た方が、すぐ店に行けないような場所になってしまっているんで、店を作る側としては厳しいなという場所になってしまっているんで、そういったところのフォローが必要かなと思います。

石田委員

一つの情報ですが、犬山館が売却した先はマンション建設が目的と聞きます。そういう安易な発想も規制を考える必要があると思います。そりゃあそこでマンション建設が一番コストパフォーマンスが高いですよ。ただ、文化観光の視点から考えると要注意です。

服部委員

かわまちづくり計画、ぜひ進めていただきたいと思います。前に岐阜市の長良川の整備でかなり大胆な整備が入っていると聞いています。ぜひこちらでもやっていただきたいなど。

今は河畔空間の絵を書いているわけですけど、梅川先生がおっしゃるとおり、河畔空間を生かしていくためには、南側の民地をどうするか。当然、ここで描かれてないですけど、堤内の川へのアクセスのところをどうするのかというところもあるはずで。

今後かわまちづくりで計画・策定していくときには、当然そこまで断面を含めて、どう滲み出していくのかという計画になっていくべきなんだろうと思います。メインは河畔空間で、それを効果的にするための堤内と民地の連携というのを計画の中でどれだけ描けるかということが肝となってくるかなと思います。ぜひ頑張ってください。

西村会長

ちょっと心配なのはそれを観光課だけでやるそうなので、土木や都市計画の人間を巻き込まないと、全然進まないんで、ぜひうまく体制づくりやっていただければと思います。

他に何かありますか。

それではよろしいでしょうか。

それでは意見交換が終わったので今後の戦略会議について事務局よりお願いします。

事務局

長時間にわたり議論ありがとうございます。今後の犬山市戦略会議ですが、委員の皆様の任期が今年の8月29日までとなっております。

これまで、戦略策定時や本日の進捗確認でお力添えいただきまして、本当にありがとうございました。

策定後も今日みたいな会議を開いて、進捗確認の場を設け、施策に活かしていく所存でございます。

会議については一年後、年一回程度の定点観測・進捗確認となっていくのかなと考えております。現在11名での戦略会議というのは策定をするために各界の代表の方にお集まりいただく形となっております。今度の進捗確認としての会議体については、もう少しサイズを小さくして、イメージとしましては、専門部会を戦略会議でありましたが、そのぐらい人数を進めていくといいのかなというふうに考えておりますので、ご承知いただきますようお願いいたします。また新たに委嘱させていただく方には個別にご相談させていただく予定となっておりますので、よろしく願いいたします。

と言いながらも、委員の皆様におかれまして今後も何らかの形で進捗状況をご報告させていただく予定ですので、

その上で、いつでもご意見・ご助言をいただけましたらと思いますので、よろしく願いいたします。今度については以上となります。

西村会長

はい。ということですがよろしいでしょうか。

私は今日のこの会議は、大変良い情報交換や議論が出来たので、うまくこういう議論が出るような場をね。戦略会議のこの会議が進捗管理をするためということであれば進捗管理に特化したところは、どこでやるにしても、やっぱりそもそもここで何が大事で、問題になっていることをどういうふうに解決するかということに関して、きちんとした場が必要だと思いますので、ぜひそれを考えていただいて、先ほどのような話し合いの場かもしれないし、他にあるかもしれないですけど、ぜひ動きを止めないようにして、進めていっていただければとおもいます。

事務局

承知しました。

西村会長

それでは進行を事務局に返したいと思います。

事務局

西村会長ありがとうございました。ちょうど4時となりました。あっという間な感じがします。本当にありがとうございます。作成の時もそうでしたが本日本当に濃密ですごく濃い議論していただきまして、我々も課題をたくさん持

ってますが改めてですね、課題感をですね、深く感じることができました。

すぐには解決出来ないことばかりですので、庁内で、連携できる体制をとりつつ、また4社でしっかりと連携して、まちづくりに関わっていく。そして今日お集まりの皆様にもですね今後とも変わらず、様々な場面、様々な機会に、ご助言ご意見、あるいはこういった議論に臨まさせていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

それではこれもちまして、令和5年度犬山市観光戦略会議を閉じさせていただきます。

皆様、本当にありがとうございました。